



湖東支部会報

平成28年度 第2号 滋賀県レイカディア大学同窓会
◆発行責任者 藤居 忠治 ◆編集責任者 澤 好成

迎

春

年頭の挨拶

湖東支部長 藤居 忠治

新年あけましておめでと
うございます。会員の皆様
方に於かれましては平成
二十九年の新春をお健やか
に迎えられることと、お慶
び申し上げます。

さて、昨年中は作品展に
始まり、Gゴルフ大会・研
修旅行・歓迎会等々の同窓
会行事を遂行出来ましたこ
とは皆様方のご協力のお蔭
と厚く御礼申し上げます。
また三十七期十三名の新入
会員の皆さんをお迎えし、
地域の同窓会員仲間が増え
心強く、感謝しております。

さて、新しい年を迎え湖
東支部として何をするべき
か、より活動を充実させる
にはどうすべきかを皆様と
共に考えていきたいと思っ
ています。そのために

各種開催事業の報告

恒例の会員作品展を七月八日
から二日間に亘って、彦根市民
会館で開催しました。会員の日頃
の幅広い取り組みを一堂に集め、

直しを行い、より多くの
会員の参加と親睦を図る。
以上二点を重要課題として考
えていきたいと思っております。

一方、米原校の同窓会と
して昨年度の米原校入学者
の応募結果を振り返ります
と定員に対して五六%に終
わりました。このような結
果が今年も続くと米原校の
存続にかかわる結果となり
かねません。同窓会員とし
ては応募者の増員を目指し
て年頃から勧誘活動を始め
なければならぬ年である
と決意しております。

本年も皆様方の一層のご
理解と長年培ってこられま
した知識・経験を活かして
お力添えいただきませう
お願い申し上げます。

最後にになりましたが、会
員の皆様の益々のご活躍と
ご健勝、ご多幸をお祈り申
し上げ、年頭の挨拶といた
します。

重厚さを感じる作品から可憐で
さわやかさを感じる作品まで多
種多彩の展示となりました。
（作品の一覧は四面に紹介）
一般市民、通りがかりの外人観
光客、学生さん、又会員など来場

者は延べ百三名。多くの出入り
で、スタッフは対応に追われました。

新入会員歓迎会を九月二十三日
甲良町の一休庵で行いました。ご
参加いただいた十一名様のご自己
紹介に始まり、ダンスや一人芸の余
興の後、宴は盛り上がりました。
歓迎会を含め四十六名の相互の
話題は、これからの活動に当たつて
具体的な内容をお互いに知りたい
ということや、趣味の説明などに
集中したようです。

十一月四日の研修旅行は三十三
名の参加者がありました。福井県
三方五湖の遊覧をはじめ縄文博物
館の見学、教習にある氣比神宮参
拜、また道中の紅葉等を楽しみな
がらの日帰り旅行でした。日程の中
で会員相互の交流が段々と深まっ
ていくのを眼にすることが出来ま
した。早くも、次回の企画を楽し
みにしていたいたいています。



研修旅行、笑顔の集合写真

会員の広場

訪問インタビュー

「百歳青年」を
目指しての日々

森野久章さん



米原校
園芸学科卒
(第十七期)

昨年の師走、卒寿を迎えられたばかりの先輩・森野さん（平成十五年年度の支部長）を、愛荘町の自宅に訪ねた。湖東支部主催の研修旅行や作品展示会、新入会員歓迎会等に毎年、参加されていて、そのお元気な姿は、皆さん良くご存じではないだろうか。開口一番、「私共後輩に向けて大いにお語り下さい」と申し上げた次第。一時間余りのインタビューを終えて、背筋が伸びる程、貴重なお話の数々だった。

◆今一番のお取り組みは何でしょう。

「九月から中高年のピアノ教室に入門して、ピアノの練習を始めたことですね。認知症の予防のためにはと思いま

してね」。なるほど、応接間の一角に新しいピアノのキーボードが置かれていた。

「漢字のしりとりもして、思いつくままノートに書き込んでいます。また新聞、テレビに出てくる新しい用語で分からないのがあれば、すぐ調べるようにしています」。それ用のノートを拝見したが、まるで学生さんのノートと見間違える程だ。森野さんの現役時代の薬の知識が活かされて、化学式も随所に綴られていた。

「分からないことをそのままにしておかない。とにかく調べるのです。尋ねるのです」。お年に関係なく、学究肌で、立派な市井の科学者なのである。九百坪近い屋敷内には小さな滝壺のある自然体の庭園があり、お宅の周辺には所せましと各種鉢物の盆栽が置かれていた。シャクナゲが二百鉢余り、松盆栽が百鉢余りとこれらが中心だが、それぞれ花の頃、ピークの頃になると、無料貸し出しで公共施設などへ運ばれているそうだ。自己鑑賞だけに終わっている盆栽類ではないのだ。

「今日、何もすることは無いという過ごし方ではなく、今日、用事があるという、日々を心がけています」。盆栽類への水やりや手入れだけでも大変

なことだろう。

庭の一角に十二メートル余りの横の木があるが、梯子をかけて剪定もされるという。村の人達がそれを見て驚かれるのも無理はない。藤居支部長もその一人だ。森野さんのかつての年賀状を拝見したところ、その剪定中の写真が使ったあつて、お元気なところをお示しになっていた。

◆レイカディア大学に入られたきっかけは何だったのでしょうか。

「父親がシャクナゲに、凝ってましてね、私も父親譲りの趣味となりましてね」。

シャクナゲと言えば滋賀県の花としてよく知られている。お父さんの勧めで、土山で行われていたシャクナゲ展にでかけたところ、世話役の方との出会いがあった。その方は、当時草津校におられた島岡先生だったという。先生からレイカディア大学米原校、園芸学科の入学を勧められ、早速、役場に申請したところ、入学を認められたという。米原校では中村先生のご指導だったとか。

「シャクナゲは、朝日が良く当たり、

夕日が当たらないところ、水はけのいいところを選ぶのがポイントとして教わりましたね」。

入学されて、以後シャクナゲに一層はまっていかれたのだ。森野さんは、松盆栽にも取り組まれ、毎年の支部作品展に出展されている。その見事な枝振りは見学者を堪能させてくださったという。

在学中のこと、選ばれて、十七期園芸学科仲間の文集作りを担当されている。当時はまだパソコンによる編集を出来る人は少なかった。初めて購入したパソコンの能力に感心しながら、慣れない操作を克服、見事に手作りの文集を第三号まで作り上げられている。カット類の中には松盆栽の写真を採用されているページもある。自らの記載記事の中には、数々の人生体験を随想で述べておられる。

◆これまでの人生、苦しかったこと、辛かったこととお聞かせいたいただきたい。

病院とか開業医さんへの薬の営業をしていた時、まだ新幹線工事が行われていて、並行する国道八号線は、完全舗装までなっていない頃でした。葉をお客さんに届ける途中、交通事故に遭いましてね。生きるか死ぬかの重傷でした」。

「豊郷病院に十ヶ月余入院、おかげさまで奇跡の生還を果たしました。この体験に学ぶことは大きかったですね。神仏のご加護を体験しましたね。入院中、色んな苦難を乗り越え、成功された方がたの本を読みましたね。その中から学び、教えられたのは、何事も誠心誠意取り組みること、ということでした」。

◆卒業後、いろんなボランティアを続けてこられましたね。

「特に、愛知川地区の緑の少年団の団長を十数年やらしていただきました。泊まりがけで出かけることもたびたびでしたね。大事な盆栽が、日々のケアができなくて、枯れることがあったという。趣味かボランティアかお悩みになったこともあったという。それでも同少年団への無欲のご奉仕に徹せられたという。毎年、恒例のクリスマスでは、サンタさんに扮して町の子供達に囲まれておられるようだ。ご立派な白ひげを蓄えられた森野さんの姿をご想像いただくよう。

◆時代は変わりましたが、少年時代を思い出していたかどうか。

「子供の頃、体が弱かった。父親は

心配して、ラジオ体操をしないとか、なんとかかんとか言いました。勉強をしないとかは一切言わなかったんですよ。家の仕事をせよ、ばつかりで、秋なんか、稲刈りの頃、学校から帰りがカバンを置いてすぐ、田んぼへ走ったものです。冬の頃だと、一年分の薪を作るために愛知川の川原へ行って、柴作りを手伝いました」。

今頃と違って、小遣いなんか何もなかったそう。ただ、村のお祭りには五銭を親からいただいたという。森野少年の一番の楽しみだった。

「もみ殻に埋めてあるにつきい汁のピン詰めを買うのが楽しかった」。手にした喜びの表情が浮かぶ。

◆小学校時代の合宿体験も貴重だったようですが。

「学区をこえての合宿体験教室が彦根の小学校でありました。そこでは食事の好き嫌いを徹底して矯正されました。テーブルには嫌なものも並べてあった。ところが先生は、『みんなが食べ終わるまで席をたつてはいけません』と。箸をつけないでいると、肩をポンとたたいて『早く食べなさい』と。食べてみると案外おいしかった。嫌なものも食べているうちに段々食べられるようになりました」。具体的に嫌なものは何だったのか、聞き落してしま

いましたが・・・。

「先生から、最後に言われたことは、『好き嫌いをなくすること、生活を規則正しくすること。食事はいろんな人の手によって作られているのだから、感謝の気持ちで、手を合わせて、よく噛んで食べなさい』と」。合宿体験だけに終わることなく、家に帰ってから毎日忘れずに実行していた森野さん。それから病気をしなくなつたという。

食事の事と共に強調してくださったことは・・・。

「人間関係も同じで、好き嫌いの區別をしない、いいところを見つめるようになれば、良い人付き合いにもつながっていくと思いますね」。あるお坊さんの講話で教えられたというオアシスの教訓もご披露いただいた。オオかげさま ア ありがとう シ 失礼しました ス すいません・・・の日々の気持ちだ。先輩の一貫しての謙虚な姿勢は、こうしたご体験に基づいておられると言える。



昨年7月の作品展での森野さんの松盆栽

インタビューを終えて

プライベートなことになるが、森野さんは二歳年下の奥様、孝子様、ご長男家族と共に暮らしておられる。インタビューを終えて、書斎や各種資料棚なども拝見することが出来たが、今日までの豊かな人生を見事なまでにフアイル化されていた。海外旅行のアルバム、プロ級の写真集、いろんなジャンルの記録集、そこに何があるかすぐに分かるようになっていた。

今日、用事があるという、その基礎になつていいる教養があふれている先輩の日常を見せていただいた。応接間にあつたウォーキングや腹筋を鍛える機械もすごいと思つたが、「百歳青年」をめざして、頑張ってくださいと心からエールを送りたい。

色々とお話いただいたが、色んな取り組み、実践、挑戦があつてこそ、それだけに説得力があつた。先輩の我々もそうありたいと思う。

(澤 好成)

同窓会会員地域活動一覧

団体名称	活動内容	活動期間	人数
奥村邸活動	同期生で古民家再生及び庭園の整備・保全	平成25年～ 1回/月	10人
小学校庭剪定	地域同窓生で校庭の樹木剪定	平成26年～ 1回/年	2人
桜守り	桜の剪定&施肥	平成13年～ 4回/年	10人
近江の松を守る	松の施肥&現地講習参加	平成21年～ 3回/年	20人
護林会	彦根市雨登山の竹林整備	平成25年～ 2回/月	15人
伊庭愛笑会	安土伊庭邸の庭園整備 (在校時からの活動)	平成26年～ 1回/月	12人
剪定ボランティア	地域公園など松、藤棚の剪定	平成25年～ 2回/月	3人
安土城総見寺庭園整備	課題学習後引き続き庭園整備	平成26年～ 1回/月	7人
近江園芸クラブ	レイ大卒業生の庭園の剪定	平成23年～1.5回/年	40人
彦根雨登山護林会	散策道の整備	平成23年～ 2回/月	38人
彦根城桜を守る会	桜の木の施肥	1回/年	100人
さざなみ学園剪定	学園校内の樹木 (150本) の剪定	平成15年～ 1回/年	50人
愛知川河畔林愛林活動	愛知川河畔林の竹林整備	平成23年～ 1回/月	60人
庄勢公園のバラ園の管理	バラ園の管理補助作業	2回/月	15人
平田川桜守の会	平田川両岸の桜の剪定整備作業	平成23年～ 1回/年	30人

作品展一覧

出展No	卒期	学科	氏名	部門	命題
1	27	生活	西山 秀之	文芸	俳画
2	31	地文	元持 和子	"	書
3	32	地文	百田 勝彦	絵画 (水彩画)	静寂
4	33	生活	山本 幸	手芸 (パッチワーク)	私のお気に入りー1
5	"	"	"	"	"ー2
6	36	園芸	戸嶋 滋一	竹灯籠	福縁寿
7	"	"	"	"	大黒天
8	32	"	宮川 文雄	工芸	銅版と真鍮折3体
9	"	"	"	"	ペットボトルの風車と机
10	34	"	福島 将夫	竹灯籠	彦根城
11	"	"	"	"	村芝居
12	"	"	"	"	M. Monroe
13	35	北近江	澤邊 雅子	絵画	風景
14	"	"	"	"	写生
15	31	園芸	山岡 勝	"	権
16	28	生活	外村 輝夫	点描画	里山の風景
17	"	"	"	"	富嶽三十六景
18	24	文芸	河分 武士	写真	古城の春
19	"	"	"	短歌 (色紙)	芋を掘り・・・
20	22	スポ	山城 利之	手芸	折り紙 (ペーパーブロック)
21	35	北近江	木下二二男	油絵	ロッキーの印象
22	"	"	"	"	ガウディ印象
23	23	園芸	野口 勇	写真	里山の春
24	"	"	"	"	高原夕照
25	32	地文	児玉 正孝	絵画 (水彩画)	桜
26	33	園芸	守野吉一	" (大津絵)	恵比寿
27	32	園芸	藤居忠治	工芸	缶風車 (5体～)
28	32	陶芸	久保川幸雄	陶芸	焼きバ
29	"	"	"	"	花器
30	26	スポ	阿藤文子	工芸	瓢箪細工ー1
31	"	"	"	"	瓢箪細工ー2

出展No	卒期	学科	氏名	部門	命題
32	26	生活	森野寿美子	工芸	瓢箪細工
33	"	"	"	手芸	折り紙
34	25	園芸	須田 誠一	写真	野鳥三瓶 (3点)
35	17	"	森野 久章	盆栽	錦松
36	21	スポ	木村 傳平	書 (風韻)	龍聚鳳翔
37	36	園芸	戸嶋 滋一	竹灯籠	童 (わらべ)
38	34	陶芸	金子美智子	書	清浄歎喜知恵炎
39	"	"	"	"	尺壁非宝寸陰是觀
40	31	"	宇野 幸彦	切絵	余呉の民家
41	"	"	"	"	旧愛知郡役所
42	"	"	"	工芸	縁起丸瓢箪・丸瓢箪に飛天像
43	34	園芸	福島 将夫	水墨画	竹
44	24	スポ	青木 秋子	ちぎり絵	ひまわり
45	"	"	"	"	アメフリ
46	35	園芸	澤 好成	写真ー1	自画自讃の風景
47	"	"	"	"ー2	"
48	"	"	"	"ー3	"
49	25	スポ	横山 照子	油絵	比良山系と初春のびわ湖畔
50	36	園芸	中山千代恵	陶芸	飾り鉢
51	36	"	"	絵画	ハスの開花
52	33	"	山岡 勉	木工芸	空想台
53	36	"	鯉口 政子	手芸パッチワーク、タペストリー	花かご
54	"	"	"	"	秋の訪れ
55	29	文芸	小沢 三男	文芸	俳画ー1
56	"	"	"	"	"ー2
57	32	生活	杉江 久子	手芸	デコパージュ (犬)
58	"	"	"	"	(器)
59	18	スポ	矢田しづ江	"	押し花5点
60	29	園芸	中田 茂男	盆栽	岩盆栽
61	29	"	"	"	馬 (ツタ)

編集後記

一月も早、中旬が過ぎようとしております。本年もよろしくお願いたします。第二号の発行に当たり、会員のための紙面作りには主眼をおきました。新入会員歓迎会や研修旅行などで、「相互の活動や趣味の世界をもっと知りたい」との声を耳にしました。お互いを知ることに、より心豊かな日々になると思っております。先輩方の生き様からも学ぶことが多いと思えます。それが森野久章さんの訪問インタビューとなり、シニア世代のさわやかな暮らしを共にめざしていきましょう。

最後になりましたが、後に続く入学者の伸びが悪いとお聞きしております。いろんな機会をとらえてお互い励ましをいきたいと思います。

一月二十日

物故者

謹んでお悔やみ申しあげます。

林 貞三氏
 第十九期 文芸学科
 平成二十八年十一月十七日ご逝去

山本 浩氏
 第十九期 スポーツレクレーション学科
 平成二十八年十二月十三日ご逝去



作品展から